

獄中の作（武市半平太）

花は 清香に 依つて 愛せられ

人は 仁義を 以つて 榮ゆ

幽囚 何ぞ 恥ず べけんや

只 赤心の 明らかなる 有り

花依清香愛 人以仁義榮

幽囚何可恥 只有赤心明

解説 投獄された一年十か月の間に作られた詩である。囚人として獄中にあつても、人が人たる所以である仁義に悖らぬ以上、少しも恥じることはない、と己の信念を述べている。

語釈 ※花||特定の花ではなく、花一般と見てよからう。※清香||清らかな香り。※幽囚||投獄された人。※赤心||まごころ。

通釈 花は、その清らかな香りによって人に喜ばれ、人は、仁義によって人のかがやきを増していくものである。いま、私は獄に繋がれてはいるが、少しも恥とは思っていない。なんとすれば、私の行為は、いつわりのない忠義の心だけから出たものであることが、はっきりとしているからである。